

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成22年8月26日(2010.8.26)

【公開番号】特開2008-277250(P2008-277250A)

【公開日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-045

【出願番号】特願2007-329049(P2007-329049)

【国際特許分類】

H 0 1 B 13/00 (2006.01)

B 0 5 D 5/12 (2006.01)

H 0 1 B 5/14 (2006.01)

H 0 5 K 9/00 (2006.01)

【F I】

H 0 1 B 13/00 5 0 3 B

B 0 5 D 5/12 B

H 0 1 B 13/00 5 0 3 Z

H 0 1 B 5/14 Z

H 0 1 B 5/14 A

H 0 5 K 9/00 V

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月9日(2010.7.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支持体上に導電性物質と水溶性バインダーとを含有する導電性金属部を形成する工程と

、
前記導電性金属部を 4 0 以上の温水に浸漬させる温水浸漬工程と
を有することを特徴とする導電膜の製造方法。

【請求項 2】

前記の温水への浸漬時間が 5 分以下であることを特徴とする請求項 1 に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 3】

前記水溶性バインダーが水溶性ポリマーであることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 4】

前記温水の温度が 6 0 以上であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 5】

前記温水の温度が 8 0 以上であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 6】

前記温水の pH が 2 ～ 13 であることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 7】

前記の導電膜に硬膜剤が含まれていることを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 8】

前記温水浸漬工程の前に、前記導電性金属部を平滑化处理する平滑化处理工程を有することを特徴とする請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 9】

前記平滑化处理を線圧力 1960 N/cm (200 kgf/cm) 以上で行うことを特徴とする請求項 8 記載の導電膜の製造方法。

【請求項 10】

前記導電性物質が導電性金属微粒子であることを特徴とする請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 11】

支持体上に感光性銀塩と水溶性バインダーとを含有する感光層を有する感光材料を露光し現像することによって、前記支持体上に導電性金属銀部を形成する工程と、

前記導電性金属銀部を 40 以上の温水に浸漬させる温水浸漬工程とを有することを特徴とする導電膜の製造方法。

【請求項 12】

前記水溶性バインダーが水溶性ポリマーであることを特徴とする請求項 11 記載の導電膜の製造方法。

【請求項 13】

前記温水の温度が 60 以上であることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 14】

前記温水の温度が 80 以上であることを特徴とする請求項 11 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 15】

前記温水の pH が $2 \sim 13$ であることを特徴とする請求項 11 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 16】

前記支持体上のいかなる層にも硬膜剤を含有しないことを特徴とする請求項 11 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 17】

前記温水浸漬工程の前に、前記導電性金属部を平滑化处理する平滑化处理工程を有することを特徴とする請求項 11 ~ 16 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 18】

前記平滑化处理を線圧力 1960 N/cm (200 kgf/cm) 以上で行うことを特徴とする請求項 17 記載の導電膜の製造方法。

【請求項 19】

請求項 1 ~ 18 のいずれか 1 項に記載の方法によって製造された導電膜。